

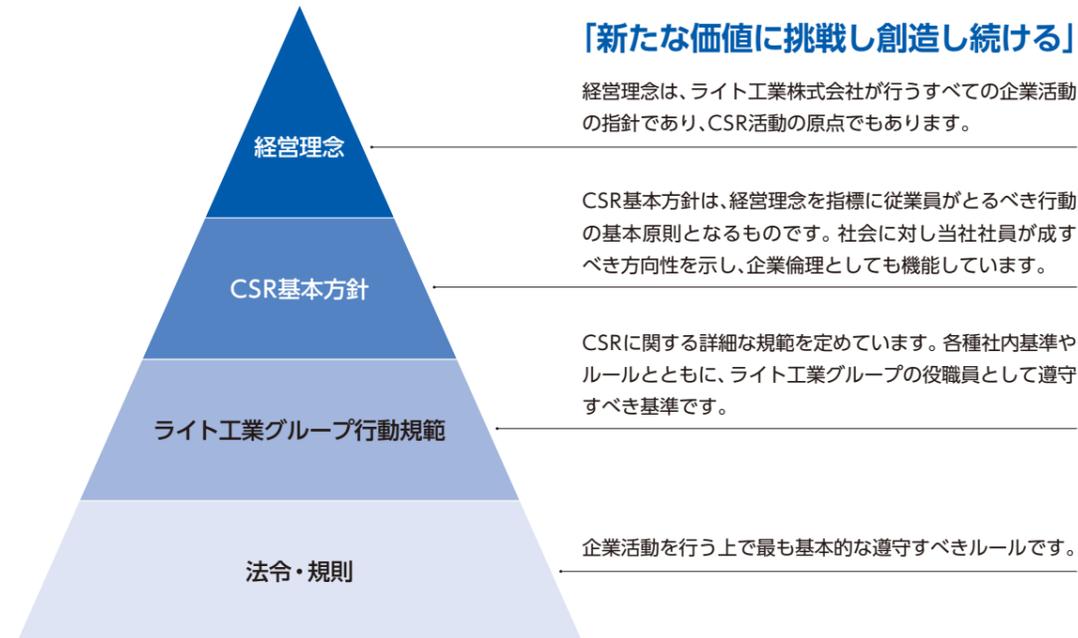
# CSR Report 2017



ライト工業株式会社

## グループの理念

ライト工業は経営理念を具現化するために、CSRの各分野に関する基本方針を制定し公開しています。  
社内外に有言実行の姿勢を示すことで、社員の意識を継続的に高め、  
ステークホルダーから信頼される会社、社員自身が誇れる会社を目指します。



### CSR基本方針

- 1 企業の社会的責任に対する社員意識の向上を促し、日々の生産活動において自己が行うべき責務を社員自らが判断し、責任感を持って社会の一員として業務を行います。
- 2 企業の存在は持続可能な社会のもとで成り立っていることを十分に理解し、社会に積極的に貢献するとともに地球環境の保全を行いグローバル企業としての責任を果たします。
- 3 事業活動におけるあらゆる場面で人権を尊重するとともに、ステークホルダーとの対話の機会を重視し、説明責任を果たします。



### 社名の由来

社名の由来には二つの説があります。一つは、当時開発を進めていたトンネル補修材料の名前に「今の暗い世の中を明るくするという意味で『明かり(ライト)』」を採用し、1948年の法人化に伴い社名に用いたという説。もう一つは、戦後の混乱期、建設業界においても近代経営への脱皮が叫ばれていたため、「今後の建設業の経営は正しく、しかも明るく進まなければいけない」と痛感し、社名をライト工業とした」という説です。この説に社名の表記が『Raito』であるヒントがあるかもしれません。「Light(光)」と「Right(正しい)」の意味を重ねた「正しく明るく」で『Raito』となった可能性があります。当社の社訓は「正しく明るく」です。

## 編集方針

ライト工業は「ライト工業CSR基本方針」に基づき、環境や社会に対して様々に取り組み、2015年度よりそれらの活動をCSRレポートにまとめ発行し、ステークホルダーの皆さまにお伝えしています。  
2017年度は当社の取り組みをESGの視点から編集し直すとともに、事業を通じた社会への貢献活動を特集1として、また、“技術のライト工業”を裏付けるR&Dの取り組みを特集2としてまとめご紹介しています。  
当社では、CSRレポートを重要な情報開示のツールとして位置づけ、今後とも皆さまから寄せられる貴重なご意見を参考にしながら、読みやすく、理解しやすい報告書にするよう工夫してまいります。本レポートに対する忌憚のないご意見、ご感想をぜひお寄せください。今後の活動の参考とさせていただきます。

### 対象組織

ライト工業株式会社を報告対象としています。一部の項目についてはグループ会社の情報を含んでいます。

### 対象期間

2016年4月～2017年3月  
ただし一部の情報については本レポート発行直近の最新情報も含めて報告しています。

### 参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」  
GRI「サステナビリティ レポートニング ガイドライン 第4版」

### 発行年月

2017年12月12日

## 目次

|              |   |
|--------------|---|
| グループの理念      | 2 |
| 編集方針/目次      | 3 |
| トップメッセージ     | 4 |
| ライト工業グループの概要 | 6 |
| ライト工業グループの事業 | 8 |

|   |    |
|---|----|
| <b>特集1</b> 独自技術で社会の安全・安心を支える<br>廃炉に向けた取り組み<br>福島第一原子力発電所の<br>り面フェーシング工事 | 10 |
|---|----|

|   |    |
|---|----|
| <b>特集2</b> 新技術を追求し、社会の安全・安心に貢献<br>次世代へ繋がる体質の強化<br>効率的な研究開発の推進<br>技術開発機能を集約した「R&Dセンター」完成 | 12 |
|---|----|

## Environment

|                |    |
|----------------|----|
| 事業を通じた地球環境への貢献 | 14 |
| 事業活動による環境負荷の低減 | 16 |

## Social

|               |    |
|---------------|----|
| 品質向上への取り組み    | 18 |
| 安全で働きやすい職場づくり | 19 |
| 人権の尊重         | 20 |
| 人材育成          | 21 |
| 地域社会とともに      | 22 |

## Governance

|                     |    |
|---------------------|----|
| コーポレート・ガバナンス        | 24 |
| コンプライアンス            | 25 |
| リスクマネジメント           | 26 |
| ステークホルダーとのコミュニケーション | 27 |

## 社会の要請や外部環境の変化に適切に対応できる 強靱な組織づくりを目指します。



ライト工業株式会社  
代表取締役社長

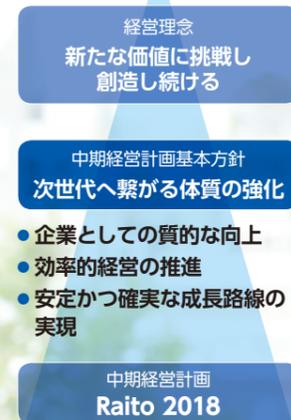
鈴木 和夫

### 中期経営計画『Raito2018』

ライト工業は、中期経営計画『Raito2018』（2016年度～2018年度）を“将来のライト工業の成長に向けた土台づくりの期間”と位置づけ、各種施策を展開しています。中期経営計画初年度にあたる2016年度において売上高、営業利益が当初目標を達成したことなどをを受けて、2017年5月に計画の目標数値を上方修正しました。

中計期間も半ばを過ぎましたが、現在までの進捗は一部事業にやや遅れが見られるものの、全体としては順調であると評価しています。今後もさらなる経営基盤強化策を確実に進め、技術を通じて社会に貢献し続ける企業となることを目指して運営していきます。

#### 基本方針



#### 経営数値目標



### 事業活動を通じた環境保護

近年、地震や台風、豪雨などの自然災害の頻発に加え、被災規模が大型化しています。災害は一度起これば生活環境はもとより、自然環境にも大きなダメージを与えるため、非常に深刻な環境破壊であると考えています。

ライト工業グループの主力事業である特殊土木工事は、土砂災害や液状化などの予防と復旧の両面において重要な役割を果たしており、事業活動自体が環境の保護・保全に直接結びついています。特に緑化工事や土壌浄化工事などは環境修復への貢献度が高く、社会の要請に応じて工法のアップデートは不可欠なものだと考えています。今後もさらなる工法の充実を図り、持続可能な社会の創造に寄与する事業活動を展開していきます。

### 多様な組織と働き方

企業活動を行う上で、組織としての機能を高めることは非常に重要な取り組みの一つです。建設業では就労者の高齢化や入職者の減少が顕著となり、ワークライフバランスを重視した働き方改革の推進も重要課題の一つとなっています。必然的に一人あたりの生産性の向上が急務であり、当社グループにおいても様々な形で取り組んでいます。

組織全体で多様性を高めることで生産性が向上すると考えていますが、大きく二つの方策を進めています。一つ目は個人の能力を多様化することです。社員の皆さんに様々な経験をしてもらうことで、多くの業務に対する見識と能力を培ってもらうようにしています。二つ目は組織としての多様性であり、性別・国籍・学歴・専攻等にとらわれない多様な採用活動や定年制の見直しなどに積極的に取り組んでいます。

多様な組織にすることで、多様な職務に対応できる強靱な組織となると考えていますが、多様な職務には多様なやりがいや満足があるはずで、グループ役員すべてが、それぞれのやりがいを見出し職務に取り組むことで、グループ全体の持続的な成長に繋がると確信しています。

### 次世代に向けたガバナンス構築

社会のインフラ整備に携わる当社グループは信用を損なうようなことは絶対に防止しなければなりません。ガバナンス機能の強化には長い時間をかけて取り組んできています。ガバナンスにおいて重要なのは継続性を維持することだと考えていますが、外部環境は常に変わるものであり、ガバナンスの体制・システムも変化し続ける必要があります。

企業としての根幹を成すのは、事業活動が社会に必要とされ適正な利益を得ることであり、事業活動が健全な状態であることがガバナンスの第一歩であると考えています。近年報道されることの多い不正会計問題は、その最たる例ではないでしょうか。長期にわたり社会に必要とされ続けるために、外部環境の変化に適切に対応できるよう経営全体をデザインしていくことが私の使命だと考えています。

当社グループは地盤改良などの地下の工事も主力事業ではありますが、常に「陽の当たる道を歩む」ことを目指したガバナンス体制を構築し、事業活動を行ってまいります。

会社概要

社名 ライト工業株式会社  
 本社 東京都千代田区九段北四丁目2番35号  
 創業 1943年(昭和18年)7月1日  
 代表者 代表取締役社長 鈴木 和夫  
 資本金 61億1,947万5,000円  
 従業員数 870名(2017年3月31日現在)  
 事業内容 建設事業およびその他  
 支社 関東、西日本  
 統括支店 北海道、東北、関東、中部、中国、九州  
 事業所 福島  
 グループ 連結子会社9社、非連結子会社8社

連結グループ会社

建設(国内) 株式会社みちのくリアライズ  
 株式会社東北リアライズ  
 株式会社小野良組  
 株式会社アウラ・シーイー  
 株式会社東海リアライズ  
 株式会社九州リアライズ  
 建設(海外) RAITO, INC. (米国)  
 Raito Engineering & Construction Limited (香港)  
 その他 株式会社やさしい手らいと(介護)

財務データ(連結)



事業領域



**土木事業**  
 都市土木技術、斜面・のり面対策技術、構造物補修・補強技術を中心として、道路、河川、港湾など社会資本の形成や長寿命化に貢献し、国土の安全・安心を実現しています。

●のり面保護・緑化 ●斜面安定・防災 ●地盤改良  
 ●地中連続壁 ●薬液注入(グラウト) ●管布設  
 ●構造物補修・補強 ●土壌汚染対策 ●調査



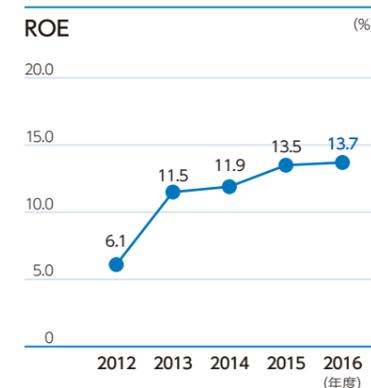
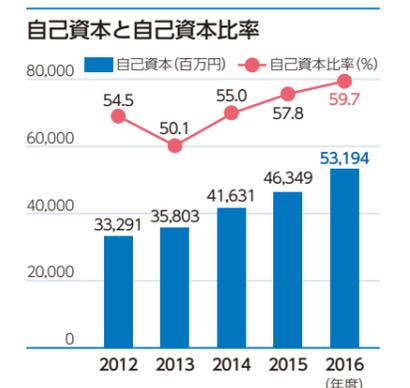
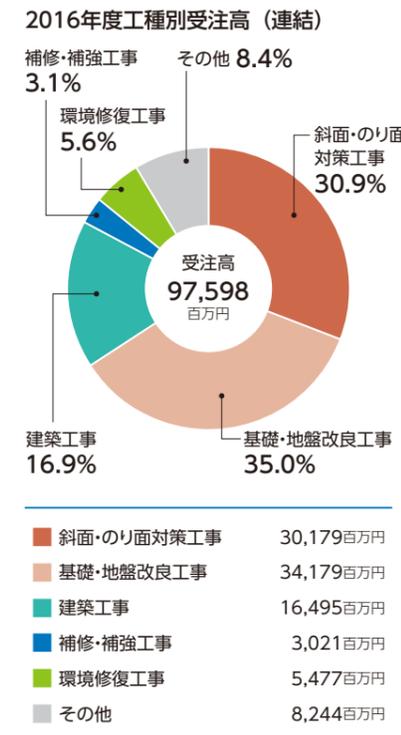
**建築事業**  
 専門知識、技術力、マネジメント力を融合し、マンションをはじめオフィス、商業ビルなど、設計から施工まで付加価値の高い提案でお客様の様々なニーズにお応えしています。

●集合住宅 ●オフィスビル ●ホテル ●商業ビル  
 ●医療福祉施設 ●生産施設 ●大規模補修 ●戸建住宅



**海外事業**  
 国内で培った豊富な経験に基づくノウハウと高度な独自技術を駆使して、アジア、北米など、数多くのプロジェクトに携わり、グローバルに事業を展開しています。

●米国 ●香港 ●シンガポール ●ベトナム



**1 斜面・のり面対策工事**



人工的に形成されたのり面を降雨や表流水等による侵食から守り、自然斜面で発生する落石、崩壊、地すべり等を抑止することで、斜面災害から人々の生活を守ります。

**2 基礎・地盤改良工事**



軟弱な地盤を改良することで災害に強い都市空間を築いています。人々の快適な生活環境を保ち、安心できる暮らしを支えています。

**3 建築工事**



「そこに暮らす人、そこで働く人、そこを訪れる人を豊かにする」。地球との共生を図る私たちならではの建築施設をご提案していきます。

**4 補修・補強工事**



今あるインフラ施設は維持管理の時代を迎えており、長期にわたる機能維持が求められています。質の高い補修・補強技術を提供し、構造物の長寿命化に貢献しています。

**5 環境修復工事**

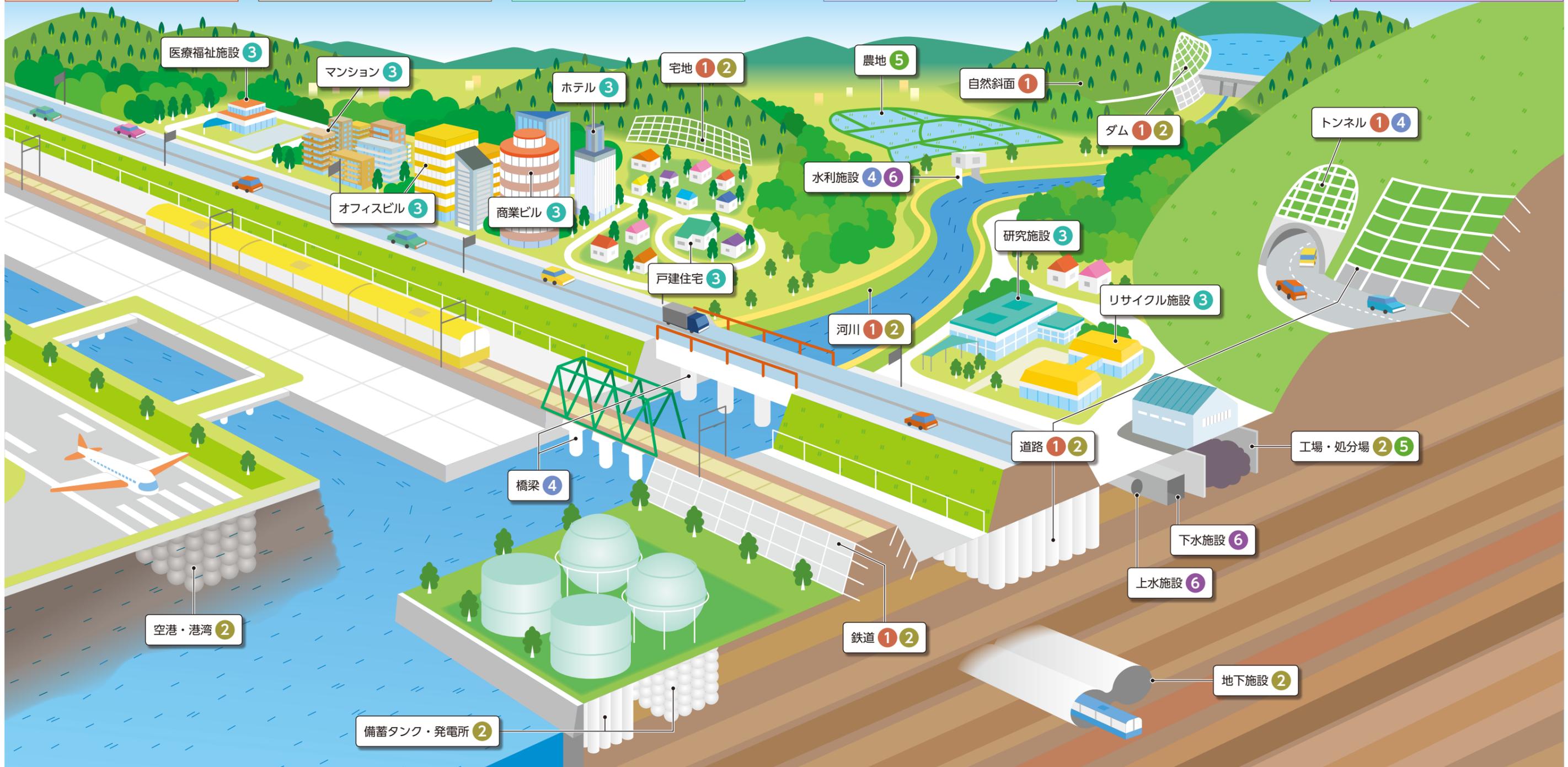


斜面保護や地盤改良に関する豊富な知識と技術を生かして、緑化や土壌・地下水汚染の調査・対策等を行い、環境保全や土地の有効活用に貢献しています。

**6 管きょ(函きょ)工事**



地震に強い管きょ築造技術や、マンホール浮上抑制技術を持って、インフラ整備に貢献しています。下水施設、農業用水路等様々な分野に対応可能です。



# 廃炉に向けた取り組み 福島第一 原子力発電所 のり面のフェーシング工事

東日本大震災から6年が過ぎ、東京電力福島第一原子力発電所では、廃炉に向けて様々な取り組みが進められています。中でも特に重要なのがフェーシングと呼ぶ工事のうち、のり面のモルタル吹付工事で、雨水が地中に浸透して原子炉建屋内に流入するのを防いだり、敷地内の放射線量を下げたりする役割があります。ライト工業はのり面での過酷なフェーシング工事を担い、安全で迅速なインフラづくりに貢献しました。

## フェーシング工事における多様な課題

福島第一原発では廃炉プロジェクトを進めるための基盤整備として、元請け4事業者のもとに地盤改良を含め様々な取り組みが行われていますが、その中でも特に重要なのが、安全な労働環境を創出するフェーシング工事です。

当社では、「地下水バイパス周辺エリア」と「1~4号山側のり面エリア」約9万m<sup>2</sup>のフェーシング工事を、2014年3月から2017年3月まで3年の長きにわたり担いました。この特集ではそのうちの山側のり面エリアのフェーシング工事をご紹介します。職員にとって経験のない「放射線管理下での作業」に対する教育をはじめ、コミュニケーションが取りにくい状況下での作業の円滑化、熱中症の発症の防止および被曝量の低減など作業員の健康と安全の確保、さらには制約の多い作業環境下での効率的な進捗など、様々な課題を解決しながら工事を進めました。

工 事 名: 福島第一原子力発電所  
フェーシング工事  
(1~4号機山側のり面エリア)  
発 注 者: 東京電力ホールディングス株式会社  
請 負 業 者: 清水建設株式会社  
工 期: 2015年1月10日~2017年3月31日  
工 事 概 要: モルタル吹付工  
(t=10cm、ラス無し、補強繊維入り)



### フェーシング工事に関わる企業群



工事現場の全景



防護装備と全面マスクでの吹付作業



「Robo-Shot」によるモルタル吹付

## 課題解決

**1 教育**  
新規入場者教育を徹底し、  
特異環境に配慮

発電所構内で初めて働く作業員は新規入場者教育を受講してから現場に入ります。この教育は東京電力と清水建設の主導のもとに実施されますが、当社では作業員の安全と健康を守るために特に力を入れました。

当社の新規入場者教育は本人の意思の確認にはじまり、詳細な資料を使用した入場前の安全教育、特別仕様の作業手順書を用いた作業打合せ、さらに放射線管理下業務における危機管理の具体的な施策など、時間をかけ丁寧にを行いました。また、全国から集まる各作業員は初対面であり、放射線管理下での作業を初めて経験します。そこで、入場後3日間はすでに稼働しているプラントに配属し、構内作業の雰囲気と流れを把握してもらいました。それにより作業員の不安を解消し、作業員同士のつながりも生まれました。

### 新規入場者教育の流れ

| 内容/担当           | 所要日数  |
|-----------------|-------|
| 健康診断 一般・電離放射線診断 | 0.5日  |
| 新規入場者教育 ライト工業   | 0.5日  |
| 新規入場者教育 清水建設    | 0.25日 |
| 管理区域入場前教育 東京電力  | 1.5日  |
| 現地入構訓練教育        | 1.5日  |
| 入構手続き 身体線量測定    | 0.5日  |

**2 コミュニケーション**  
コミュニケーション難状況に  
きめ細かく対応

発電所構内では防護装備を着用して作業を行うため様々な困難が伴いました。中でも全面マスクの着用は作業員の声を聞きにくくし、円滑なコミュニケーションの妨げになりました。これに対して当社では、「聞こえない認識」の共有と事前のきめ細かな打合せで対応しました。特に翌日作業の打合せは入念に実施し、吹付範囲および安全施設と構造物の養生をはじめ、吹付量や材料の過不足、班体制、週間単位の見通し等についての意見交換に積極的に時間を割きました。また、作業班単位で「分からない事柄」を共有して話し合う機会を設け、その場に当社職員が立ち会いサポート。これらの取り組みによってコミュニケーションが緊密化され、工事の円滑な遂行を可能にしました。

**3 作業員の健康と安全の確保**  
熱中症と被曝線量低減への対策

防護装備を着用して行う作業は過酷で、特に夏場の全面マスクは息苦しく熱中症の発症が懸念されました。そこで現場では吹付作業の時間を短縮するとともに、規定の始業前後と中休み時の計3回健康チェックを行い、体調不良者を作業させない措置を徹底しました。また、どのような作業状況にあっても作業員が体調の不安を申告しやすい環境づくりに努めました。

フェーシング工事のエリア④、⑤、⑦は高線量区域であり、当社ではこの区域に従事する作業員の線量の把握をはじめ、特に線量の高い場所の特定、翌日に作業する場所の線量把握などを徹底。その上で、被曝量累積値の高い作業員を適宜交代したり、低線量区域に配置転換したりすることで線量の管理値を超えることなく工事を終えることができました。

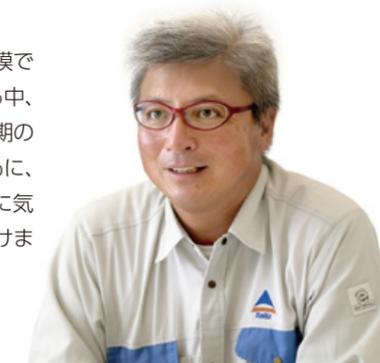
**4 効率的な進捗**  
「Robo-Shot」導入で  
工期短縮を実現

高線量区域では人力による作業時間が限られるため、工事の進捗に影響を及ぼしました。そこで当社では、独自に開発したのり面の機械化吹付工法「Robo-Shot」を導入し工事の進捗を図りました。同工法は専用の吹付ロボットを重機のアームの先に取り付けて、離れた位置から無線で遠隔操作するもので、先端のノズルを揺らすなどして人のような繊細な動作を再現。モルタルを均一かつ人力施工の約5倍の量を吹き付けることができます。この工法により、人が立ち入ることができない場所などでの作業を可能とし、安全な労働環境の創出とともに、工期内竣工に大きく貢献しました。

## VOICE 現場の連帯感を育み、大過なく完工

今回のフェーシング工事の工期は2年2カ月。通常のにり面工事が1カ月程度ですので、経験のない規模でした。また、放射線管理下での工事初めて。未経験の現場で知見も少なく、多くの困難が予想される中、何より重視したのが協力会社の作業員の安全と健康でした。被曝量の低減対策を徹底しましたし、夏期の現場では特に熱中症に注意。最盛期で70名におよぶ作業員に対して毎日健康チェックを行うとともに、一人ひとりの顔色、所作にも注意しました。そして、作業員が体調不良を申告しやすい雰囲気づくりに気を遣い、作業班ミーティングなどを通じて、職員と作業班の垣根を越えたコミュニケーションを心がけました。こうして現場全体の連帯感が育まれ、大過なく完工できたことにつながったと思っています。

ライト工業(株) 関東支社 第二事業部 施工技術部 施工技術第1グループ 工事長 安全管掌 宮園 徹雄



## 次世代へ繋がる体質の強化

# 効率的な研究開発の推進

## 技術開発機能を集約した「R&Dセンター」完成



効率的な研究開発の推進体制のもとに、次世代技術や事業分野の創出を目指します

ライト工業では、2016年度にスタートした中期経営計画において、「次世代へ繋がる体質の強化」を基本方針に掲げ、コア事業の専門土木分野で研究・開発体制を一段と強化する方針を打ち出しています。その一環として、2018年1月、新たな研究開発拠点「R&Dセンター」が茨城県つくば市に完成します。このR&Dセンターは、これまで本社の開発部門、千葉県船橋市の技術研究所、栃木県下野市の機材センターに分散していた技術開発機能を集約させた効率的な研究開発の推進を最優先に行う機関です。

特に早急な課題として、国土交通省が推進する建設現場の生産性向上策「i-Construction」にも対応する先駆的なICT活用技術の開発をはじめ、防災・減災など国土の安全と安心を実現するための新技術の開発、さらには地球温暖化や土壌汚染など環境問題に対応する新技術の開発を積極的に行っています。

また、多様化する市場ニーズを収集し情報分析と先見性から注力すべき研究課題を設定し、新たな市場創出も視野に革新的なアプローチによる研究開発を推進していきます。

※ 「i-Construction」は、国土交通省国土技術政策総合研究所の登録商標です。

### R&Dセンター概要

所在地：茨城県つくば市  
敷地面積：約12,000m<sup>2</sup>  
建物規模：S造2階建、延床面積3,285m<sup>2</sup>

### R&Dセンター研究開発方針

#### 基本方針

次世代に繋げる新技術・新工法の研究開発、新規事業を見据えた研究開発

### 研究開発の3つの柱

- 専門土木分野における先駆的なICT活用技術の開発
- 防災・減災、インフラ整備など国土の安全と安心を実現する新技術の開発
- 独自工法を基礎とした環境問題対策技術の開発

## i-Constructionへの対応を強化し、建設業の変革に貢献していきます

国土交通省が推進する「i-Construction」が盛土、切土など一般土工を中心に普及が進む中、当社では専門土木会社として培ってきた知見や強みを活かし、地盤改良とのり面の主力分野で、i-Constructionに対応した技術の開発を積極的に行っています。

### 地盤改良分野

施工機械の高精度誘導と進捗を確認できる施工管理システム

#### GNSSステアリングシステム

NETIS登録No.TH-170010-A

GNSS（衛星測位システム）を利用して、地盤改良機を計画改良位置に高精度に誘導してオペレータの打設作業をサポートするマシンガイダンス機能と、改良時の施工情報をタブレットの施工管理モニタにリアルタイムに表示し確認できる施工管理機能を統合したシステムです。



マシンガイダンス機能  
(誘導画面例)



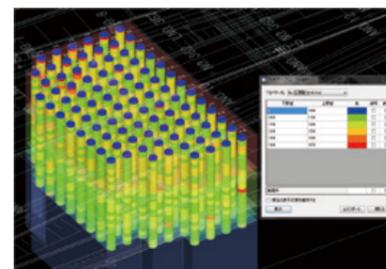
施工管理機能  
(施工管理モニタ)

ICTを適用し、地盤改良の品質・出来形を可視化

#### 3D-ViMaシステム

NETIS登録No.TH-160004-A

施工結果を3Dモデル化し、スラリー量、羽根切回数、電流値と属性情報を切り替え、色分けして分かりやすく表示できる地盤改良の可視化システムです。



施工管理データを色分けして表示

### のり面分野

施工困難な現場を吊下げ式吹付機で安全、迅速、確実に施工

#### Robo-Shot Type-G

「Robo-Shot Type-G」は当社が開発した吊下げ式の機械化吹付システムです。人力では施工が難しく危険を伴う現場において、クレーンで吊下げた装置を遠隔操作して吹付作業を行います。これにより省力化とともに、安全で効率的な作業を可能にしました。



吹付機のノズル操作者はクレーン運転手等と無線で通話し、目視と吹付機に設置したカメラ映像を確認しながら、安全な場所での操作が可能

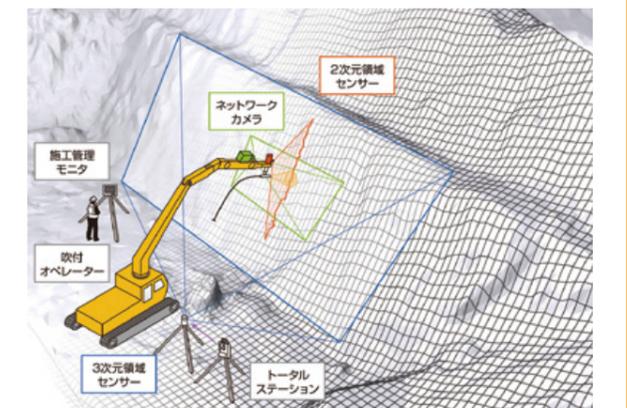
吊下げ式吹付機

ノズル操作の様子

のり面工事の施工状況をリアルタイムに表示・把握

#### Slope Vision

2016年に開発された新技術で、3D領域センサーなどを利用して、吹付作業と同時に吹付厚さの計算を行い、進行状況をリアルタイムに把握できる施工・管理一体型のシステムです。機械化吹付工法「Robo-Shot」(→P11)と組み合わせて展開していきます。



Slope Visionの適用イメージ

## 事業を通じた地球環境への貢献

斜面保護や地盤改良といったライト工業の特殊土木事業は、より良い環境づくりに欠くことのできないもので、自然や人々の暮らしに深く関わっています。当社では、工事から起こる環境への負荷を軽減しつつ、併せて質の高い環境を保全・創出するための取り組みを進めています。

### ■ 資源循環・自然との共生を図る環境緑化技術

建設事業では、元の地形を改変することもあり、それに伴い失われた緑を復元する工事を手がけています。建設時に発生する伐採木をチップや堆肥化物にして有効利用するため、資源循環・自然との共生を図る環境配慮型の技術です。

#### ● エコサイクル緑化工法 [グリーン購入法 特定調達品目登録](#)

伐採木や抜根の粉碎物などの建設副産物をはじめとする様々な廃棄物をのり面緑化工事用の生育基盤材の一部として有効利用し、緑化・自然回復を行うリサイクル緑化工法です。



#### 生育基盤材として再資源化した実績

| 分類   | リサイクル材として利用可能な廃棄物   |
|------|---|
| 有機質系 | 伐採木、抜根の生チップまたは堆肥化物、刈草・剪定枝、解体木材(木炭)、下水汚泥(造粒物)、畜産廃棄物、廃プラスチック類など |
| 無機質系 | アスファルト破砕物、コンクリート破砕物、貝殻破砕物、ガラスビン破砕物、浄水場の汚泥、石炭の焼成殻、パルプスラッジなど    |

※ 用途別に乾燥、堆肥化、ふるい分け、混合といった工程を経て有効利用します。

#### ● オールグリーンニング工法 [グリーン購入法 特定調達品目登録](#)



分散性の高い短繊維

生育基盤に短繊維を混ぜて高い保持性と耐侵食性を確保した環境配慮型吹付緑化工法です。短繊維により飛来種子の定着性が向上し、植生遷移を促進することから、生物多様性に配慮した周辺植物による早期自然回復を目的とする施工地にも適した工法です。



伐採木・抜根

解体木材

養殖貝殻

#### 施工事例：受圧板の被覆・ポット苗併用の緑化



施工から3カ月後

施工から6年後

### ■ 総合的な土壌汚染対策技術

2003年に土壌汚染の対策に関わる法律として、土壌汚染対策法が施行され、多くの地域で条例等も施行されています。

当社は、土壌汚染調査に関する調査計画の立案から調査の実施、結果の解析まで行っています。さらに、その後の評価、最適な浄化対策の立案、施工を含めて総合的に行う土壌汚染対策技術を開発・保有しています。



表層土壌、土壌ガス等の平面的な汚染状況調査の結果をもとに、深さ方向の汚染状況を調査します。



浄化対策技術

### ■ 安全で効率的な農地除染技術

放射性物質で汚染された農地表土の削り取り技術の開発を、2011年7月以降、国立研究開発法人農研機構農村工学研究所と共同で実施し、その知見と技術を応用した除染作業を国の特別除染地域で行っています。現在は開発初期のワイパー工法から、削り取り厚さの自動管理機能を備えたスキマー工法へと進化することで、より安全で効率的に表土を削り取ることが可能になり、農地除染の進捗に貢献しています。

#### ● ワイパー工法

農地表層を固化し、小型油圧ショベルのバケットを横方向にスイングさせる効率的な表土削り取り・回収技術です。



白色系固化剤の吹付けには、表土の取りこぼし防止や作業時の粉じん防止といった効果があります。

#### ● スキマー工法

電子制御による自動地形対応システムを有した専用機を用いて、農地表層を効率的に削り取り、回収する技術です。



型・軽量の専用機「PUMA2400」を用いて、農地表層を効率的に削り取ります。

※「PUMA2400」は、USG社(ドイツ)の登録商標です。

#### ライト工業の土壌汚染浄化対策技術

| 汚染物質     | 浄化対策技術  |
|----------|---|
| 重金属類     | 原位置不溶化  |
| 揮発性有機化合物 | ・鉄粉還元浄化工法<br>・化学酸化分解工法<br>・原位置バイオレメディエーション<br>・ホットソイル工法<br>・揚水パッキ<br>・土壌ガス吸引<br>・エアースパーージング |
| 油分       | 化学酸化分解法   |
| すべての汚染物質 | ・原位置封じ込め<br>・掘削除去   |

#### VOICE



有限会社たむら農建  
専務取締役

渡辺 美佳 様

たむら農建は、田村市東部の福島第一原子力発電所付近にあり、原発事故により避難を余儀なくされました。避難指示の解除後、地元企業5社で復興組合を立ち上げ、「私たちの町を私たちの手で取り戻す」活動として除染工事に携わるようになりました。当初は生活環境に近い、住宅や道路の除染に取り組みました。人力で行う落葉の片付けや道路の洗浄が主体でした。

町内の除染を3年で完了させたのち、ライト工業さんと農地除染に取り組むことになりました。農地除染は重機を使用して土壌を削り取る方法が主体で、同じ除染でもこれまでとは全く異なりました。また、放射線量も高く、作業員の安全管理についても一層の配慮が必要です。ライト工業さんは農地除染の取り組みは早い時期から行っており、それまでに蓄積した施工・安全管理のノウハウがありました。社員の方々は、現場で作業員に施工方法を指導したり、休憩中にもよく声をかけ話を聞いてくれ、皆元気づけられました。

除染工事はひと区切りを迎えましたが、帰還困難区域をはじめとして今後も対応が必要です。これからもライト工業さんとともに、私たちの町の復興への取り組みを続けていきたいと思っています。

## 事業活動による環境負荷の低減

### ■ 環境方針

自主的な環境管理の実践と継続的改善ならびに環境配慮型技術の開発と展開を通して、持続的発展が可能な循環型社会の構築を推進し、地球温暖化防止をはじめとする地球環境の維持・向上に貢献する。

1. 地球環境の維持・向上
2. 温暖化防止
3. 持続的発展が可能な循環型社会の構築

#### 【実施事項】

1. 自主的な環境管理の実践と継続的改善
2. 環境配慮型技術の開発と展開

### ■ 環境マネジメントシステム

ライト工業の環境マネジメントシステムは、国際規格の「ISO 14001:2015」の規格要求事項に基づき、環境保護、公害防止、社会のおよび経済的なニーズを考慮に入れながら環境法令を遵守し、事業活動をより効果的に管理し、継続的に改善させる仕組みを構築し活動を展開しています。



登録証

#### ISO14001認証登録

|        |   |                         |
|--------|---|-------------------------|
| 認証番号   | MSA-ES-191  | 認証範囲                    |
| 認証日    | 2003年3月20日  | 土木構造物及び建築物の設計、施工並びに除染業務 |
| 再認証日   | 2017年10月27日   |                         |
| 有効期限   | 2020年11月28日   |                         |
| 認証範囲   | 28 建設<br>34 エンジニアリング、研究開発   |                         |
| 適用規格   | JIS Q 14001:2015 (ISO 14001:2015)   |                         |
| 審査登録機関 | (株) マネジメントシステム評価センター  |                         |
| 審査登録機関 | 本社：千代田区九段北4-2-35<br>宇都宮機材センター、R&Dセンター、東北統括支店、関東統括支店、中部統括支店、西日本支社、中国統括支店、福島事業所 |                         |

### ■ グリーン調達への推進

ライト工業グループは、環境方針に掲げている「自主的な環境管理の実践と継続的改善」に基づき、すべての事業活動を通じて環境への影響に配慮し、環境負荷のより少ない事務用品および建設資機材等の優先的な調達に努めています。

#### 開発および設計・施工段階での取り組み

当社では、独自開発した環境負荷低減機能を持つ技術について、グリーン購入法の特定調達品目として認定されるよう認知活動に努めるとともに、施工段階においては、工事の発注者や設計者などへ積極的に提案活動を進めています。2018年1月に完成するR&Dセンター新築工事では、天井に使用するロックウール化粧吸音板はすべてエコマーク商品（グリーン購入法適合品）を使用しました。

#### 事務用品等のグリーン調達

当社では日本国内すべての事業所を対象にグリーン調達を推進しており、本社では事務用品等の購入時には環境に配慮した商品を積極的に選び購入しています。これにより本社の事務用品等に占めるグリーン購入法適合品等の調達率は90%となっています。

### ■ 環境教育・啓発

当社では環境経営に対する理解度向上を目的として、本社主管の新入社員教育で基礎的な環境教育を実施しています。当社の環境方針および環境マネジメントシステムに対する理解を深めることで、社員一人ひとりが地球環境問題を認識し、課題解決に向けて自発的に行動することを促しています。また、環境方針や環境活動推進の掲示や、呼びかけ等を積極的に行うことで、従業員の環境意識の啓発に努めています。



環境教育の様子

### ■ 施工段階における取り組み

当社では研究開発の段階から安全で環境負荷の少ない技術の開発に努め、施工段階においても環境保全に配慮し、CO<sub>2</sub>排出量の削減とともに、建設廃棄物の排出量の削減に積極的に取り組んでいます。これまでモルタル吹付では、袋詰めセメントが多く用いられ大量の空袋が廃棄されていました。それを当社では、サイロを活用することでバラセメントの使用を可能とし、廃棄空袋の削減を実現しました。

#### セメント袋削減イメージ



通常のモルタル吹付

袋セメントの使用で空袋（建設廃棄物）が発生



#### サイロの活用で廃棄空袋を削減



9t減算式サイロ2基



フレコンバッグ\* (1t)用サイロ

\*フレキシブルコンテナバッグの略で、粉末や粒状物の荷物を保管・運搬するための袋状の包材。ポリエチレンやポリプロピレン等の丈夫な化学繊維で織られたシートと吊りベルトで構成される。

### ■ オフィスでの省エネ活動

当社では社屋内の消灯をはじめ、クールビズ、空調温度の省エネ設定などを実施しています。また、電気の使用状況を確認できるパネルの設置や、電気の使用量が多いと色が変わるLEDライトつき時計を使用するなどして、電気の使用状況を可視化し、省エネへの意識を高めています。

本社社屋内での2016年度の電力使用量の総計は37.9万kWhとなりました。電力使用量の排出係数は、電力会社によって異なるため、ここではCO<sub>2</sub>排出量に換算せずに電力使用量の総計で評価しています。



電気の使用状況がわかるパネル



使用状況を知らせる時計

#### 2016年度の本社オフィス活動による環境負荷の全体像

| INPUT |                     | OUTPUT              |                         |
|-------|---------------------|---------------------|-------------------------|
| 電力    | 379千kWh             | CO <sub>2</sub> 排出量 | 174.7千t-CO <sub>2</sub> |
| ガソリン  | 7,057.4kL           | 一般廃棄物               | 9.54t                   |
| 水     | 1,477m <sup>3</sup> | 水                   | 1,477m <sup>3</sup>     |
| 用紙    | 3,135t              |                     |                         |

※ 環境省「電気事業者別排出係数一覧（H29夏告示）」および環境省「温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン」より算出

### ■ Web会議の推進

地球環境の負荷を低減するグリーンITの取り組みの一つとして、Web会議の活用を推進しています。会議に人が集まる際には、自動車や鉄道、航空などが利用され、それに伴いCO<sub>2</sub>が排出されます。Web会議システムを活用し出張を省くことで、移動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を確実に削減できます。2016年度は約3,000回のWeb会議が行われ、環境負荷低減に大きく貢献しました。



## 品質向上への取り組み

### 品質方針

自然との共生を基本とする高度な建設技術の開発と丁寧な運用を通して、当社品質への信頼性を高め、人々が安心して暮らせる社会の発展に貢献する。

1. 安心して暮らせる社会の構築
2. 自然との共生
3. 品質への信頼性確保

#### 【実施事項】

1. 高度な建設技術の開発と活用
2. 丁寧な技術運用
3. 技術の高度化に伴う品質水準を確保するための人材教育

### 品質マネジメントシステム

ライト工業の品質マネジメントシステムは、国際規格の「ISO 9001:2015」の規格要求事項、計画(Plan)－実行(Do)－点検(Check)－改善(Action)のサイクルを回すことで、成果品の品質管理を継続的に改善させる仕組みを構築し、1999年3月18日に認証され、全社で活動を展開しています。



登録証

#### ISO 9001認証登録

|        |   |                         |
|--------|---|-------------------------|
| 認証番号   | MSA-QS-200  | 認証範囲                    |
| 認証日    | 1999年3月18日  | 土木構造物及び建築物の設計、施工並びに除染業務 |
| 変更日    | 2017年10月27日   |                         |
| 有効期限   | 2019年11月28日   |                         |
| 認証範囲   | 28 建設<br>34 エンジニアリング、研究開発   |                         |
| 適用規格   | JIS Q 9001:2015 (ISO 9001:2015)   |                         |
| 審査登録機関 | (株) マネジメントシステム評価センター  |                         |
| 審査登録機関 | 本社：千代田区九段北4-2-35<br>宇都宮機材センター、R&Dセンター、北海道統括支店、東北統括支店、関東支店、関越統括支店、中部統括支店、西日本支社、中国統括支店、九州統括支店、福島事業所 |                         |

### 品質向上への取り組み

より良い品質を実現させるための取り組みとして、当社が最重要視しているのが、高品質を達成することが可能となる建設技術の活用とその丁寧な運用です。

実際の施工により集積されたデータをもとに、建設技術を開発、改良していくことで、様々な条件にある職場において、より良い品質を得られるよう常に努めています。

### 各種表彰の受賞

建設産業に係る優れた新技術を表彰する国土技術開発賞において、当社の「ロータスアンカー工法」が特別賞である「創意開発技術賞」を受賞しました。本工法は、公益財団法人鉄道総合技術研究所、並びに株式会社複合技術研究所と、共同開発を行った画期的な新技術です。



根本幸典国土交通大臣政務官(中央)から表彰を受ける鈴木和夫代表取締役社長(右)と別府正顕技術担当部長(左)

当社が担当した工事案件などでは、高品質の施工技術と施工管理技術をはじめ、地域への貢献などが各方面から評価され、様々な賞をいただいています。当社は今後も、高度な技術を開発し丁寧な運用を進めていくことで、品質の維持、向上に努め、より信頼される企業を目指していきます。

#### 2016年度の主な受賞

| 表彰団体                          | 表彰名                | 受賞対象                        |
|-------------------------------|--------------------|-----------------------------|
| 国土交通省<br>近畿地方整備局              | 工事成績優秀企業認定書        | ライト工業株式会社                   |
|                               | 優良工事等施工者(工事)局長表彰   | 高取中央地区斜面対策(その6)工事           |
| 国土交通省<br>近畿地方整備局<br>六甲砂防事務所   | 優良工事等施工者(工事)事務所長表彰 | 普合地区斜面対策(その3)工事             |
| 国土交通省<br>北陸地方整備局<br>伏木富山港湾事務所 | 優良工事における下請負者表彰     | 伏木富山港(伏木地区)岸壁(-14m)(改良)耐震工事 |
| 国土交通省<br>中部地方整備局<br>豊橋河川事務所   | 優良工事等協力会社事務所長表彰    | 平成26年度矢作川白浜漏水対策及び橋台下部工事     |

## 安全で働きやすい職場づくり

### 安全衛生管理方針

期初に全社の安全衛生管理方針、安全衛生数値目標を定め、それに基づき、店社、作業所の安全衛生数値目標、目標達成方策を定めた計画を策定し、活動を展開しています。

#### 2017年度安全衛生管理方針

1. 「人命尊重・安全第一」を基本理念として災害のない安全でより信頼される企業を目指す。
2. 「労働安全衛生マネジメントシステム」の活発な運用による安全で安心して働ける快適な職場環境の形成を目指す。
3. 労働安全衛生に関する法令、通達、指針、社内規定等を順守する。
4. 職員及び協力会社に対し安全衛生管理方針及び安全衛生管理計画を周知徹底するとともに、安全衛生教育の充実、強化を図り、協力会社と一体となって安全衛生数値目標の達成を目指す。

### 安全成績

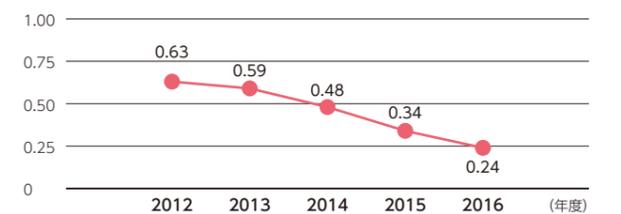
当社の安全成績は、7年間、死亡災害ゼロを継続しています。度数率<sup>※1</sup>も毎年、前年度を下回る成績を継続しており、2016年度の度数率は0.24<sup>※2</sup>となっています。

※1 度数率とは、延べ労働時間100万時間あたりの災害発生件数  
※2 全国の総合工事業(工事現場)の度数率:0.64  
認証範囲(厚生労働省「平成29年安全の指標」より)

#### 【2017年度安全衛生数値目標】

1. 死亡災害ゼロの継続
2. 重大災害(障害等級7級以上)の絶滅
3. 度数率0.33以下

#### 度数率の推移



### 労働安全衛生マネジメントシステム

ライト工業の労働安全衛生マネジメントシステムは、国際規格の「OHSAS 18001:2007」の規格要求事項、および計画(Plan)－実行(Do)－点検(Check)－改善(Action)のサイクルを回すことで、職場における労働安全衛生レベルを継続的に改善、向上させる仕組みを構築し、全社で活動を展開しています。



登録証

#### OHSAS 18001認証登録

|        |   |                         |
|--------|---|-------------------------|
| 認証番号   | MSA-SS-123  | 認証範囲                    |
| 認証日    | 2010年11月26日   | 土木構造物及び建築物の設計、施工並びに除染業務 |
| 変更日    | 2017年10月25日   |                         |
| 有効期限   | 2019年11月25日   |                         |
| 適用規格   | OHSAS 18001:2007  |                         |
| 審査登録機関 | (株) マネジメントシステム評価センター  |                         |
| 審査登録機関 | 本社：千代田区九段北4-2-35<br>宇都宮機材センター、R&Dセンター、北海道統括支店、東北統括支店、関東支店、関越統括支店、中部統括支店、西日本支社、中国統括支店、九州統括支店、福島事業所 |                         |

### 経営層による安全パトロールの実施

当社では、「全国安全週間」「全国労働衛生週間」などの特別週間および準備期間を重点として、通年にわたり経営層による安全・労働衛生等をチェックする安全パトロールを実施しています。社長をはじめとする経営層が直接、当社職員および協力会社に安全衛生管理活動への積極参加を呼び掛けるとともに、重点項目の実施状況を確認し、必要に応じて改善の指摘・指示をしています。社長自らが安全パトロールを行うことで、安全衛生管理の重要性を全役職員および協力会社に発信し、活動の活性化につなげ、より安全で快適な職場環境の形成を目指しています。



経営層による安全パトロールの様子



## 人権の尊重

### 人権に対する基本的な考え

ライト工業グループは、「ライト工業グループ行動規範」において「役員等は、社内においても、社外においても、基本的人権を尊重し、性別、国籍、人種、宗教、社会的身分、身体上の理由等による差別を行ってはならない。」と人権に対する基本的な考え方を示し、基本的人権を尊重するための行動規範を定めています。

### 多様な人材の活躍促進

国を挙げて一億総活躍社会が提唱される中、国籍や性別、年齢、障がいなどにとらわれず、多様な人材が活躍できる環境づくりが社会的な要請のひとつとなっています。そのような中、ライト工業は女性をはじめとするすべての社員が働きがいを持って十分に能力を発揮できる企業を目指しています。

#### 女性社員の活躍

2016年4月1日からの5年間の行動計画として「技術職を中心とした女性総合職採用に関し、新卒者を中心に毎年1名以上採用し、10名以上とする」という目標を掲げ、採用活動を行っています。また、女性社員を含むエリア職として採用された職員が総合職に転換できる制度を設けるなど、一人ひとりの能力が最大限発揮できる環境の整備を積極的に進めています。

#### 障がい者雇用

個々が職場に適応し定着できるよう、障がいの状態に配慮した働きやすい職場環境づくりを心がけ、個々の能力を考慮した仕事、職場の提供に努めるなど、継続的に障がい者雇用の促進に努めています。

#### 高齢者の雇用

定年再雇用規程を制定し、定年後の継続雇用を積極的に進め、定年後も引き続き働く意欲のある社員が、長年培った技能、技術、知識を活かせる雇用機会を提供しています。2016年度においては、18名の高年齢社員を再雇用しました。

### ハラスメント防止教育

ライト工業グループは「ライト工業グループ行動規範」において、ライト工業グループ役職員のセクシャルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメントなど、人権侵害行為の禁止を明示しています。

また当社では、人事総務部に相談窓口を設け、快適な職場環境の保持を図ると同時に、社内教育の実施や通達、社内報などによる啓発を行い、経営幹部をはじめすべての役員にハラスメントの防止を周知・啓発しています。2016年度は社会保険労務士や弁護士による講義を実施し、どのよう



ハラスメント防止教育

な言動や行為、考え方がハラスメントにつながるのか実際の事例をまじえ詳しく解説し、役員職員のハラスメントに対する理解を深めました。

### ワークライフバランス

ライト工業グループでは、働きやすい環境を整備し、仕事と生活の調和を図る「ワークライフバランス」の実現に向けた取り組みとして、1) 育児休業および育児時短勤務、介護休業など制度の整備と充実、2) 時間外労働時間の削減を推進しています。

また、年末年始休暇や夏季休暇に併せて有給休暇の取得を奨励し、連続休暇にすることによって心身の休息、リフレッシュを促し、それによって業務の効率化を促進する取り組みも行っています。

### メンタルヘルスケア

当社では社員の心の健康管理の一環として、定期健康診断での問診をはじめ、産業医・保健師への相談窓口の設置、メンタルヘルス研修等を行っています。

また、2016年度からは、セルフケア（個々が行う自身の健康管理）の充実と働きやすい職場環境づくりを目的として、労働安全衛生法に基づいて、産業医・保健師によるストレスチェックを実施しています。インターネットを利用したストレスチェックを活用することで多くの社員が簡単にセルフケアできる環境を整えるとともに、個々のストレスチェックの結果に基づき、産業医・保健師が必要に応じて面接推奨の連絡を入れてバックアップする体制を整えています。

## 人材育成

### 人材に対する基本的な考え

ライト工業では、国籍・人種・性別などに関わらず、多様な価値観と広い視点で物事をとらえ、グローバルに活躍できる人材の育成に努めています。経営理念の「新たな価値に挑戦し、創造し続ける」のもとに、従業員一人ひとりが成長し、その能力を最大限発揮できる環境をつくるのが経営の重要課題と考えています。その認識を踏まえ、従業員の能力開発支援の強化に取り組んでいます。

#### 新入社員対象の教育・研修内容例

##### ● 導入時研修（新入社員対象）

学生という身分から社会人となることを目的に当社社員として、職務・業務を遂行する上で必要とされる基本的な知識やスキル、ビジネスマナーなどを身に付けてもらうために行っています。

- 【研修内容】
1. 会社規程等概要説明
  2. ビジネスマナー
  3. 安全衛生管理
  4. 各工法の基礎知識習得
  5. 土木・建築の基礎学習

##### ● 現場実習（OJT）

配属部署において必要とされる基礎知識および専門知識を、実務を通して習得することを目的とし、指導担当者がマンツーマンで行っています。

- 【研修内容】
1. 現場（職場）での規律と基本行動
  2. 安全衛生活動の理解
  3. 日々の業務サイクルの把握
  4. 社内および施工管理書類作成の習得
  5. 各種資格取得教育

#### 主な教育・研修プログラム

- 導入時研修
- 技術研修（施工技術系）
- 管理者研修
- 技術士、施工管理技士など各種資格取得用研修
- e-ラーニングによる各種研修・教育
- 現場実習（OJT）
- 営業担当者研修（営業系）



研修の様子

#### VOICE

本社  
施工技術本部  
杉山 健太



測量やプログラミング、CADによる製図などを担当しています。導入研修で測量やCADについて一通り学んでいたため、配属先でもスムーズに業務を進められました。また、研究の幅を広げるために、OJTの一環として施工管理の業務を経験しました。研究開発の仕事は難しく感じることも多いですが、自己研鑽に努め、社内外の人と協力し新たな技術の開発を目指していきたいと思っています。

#### VOICE

中国統括支店  
中村 亮介



入社後、導入研修で施工管理の基礎知識を学んだのち、上司や先輩方の指導のもと、様々な現場を経験し実践的な知識を学びました。入社2年目には実務経験を積むために小規模工事の施工管理を担当し、上司や先輩方の支援もあり無事に工事をやり遂げることができました。これからも研修や実務経験を通じてスキルアップを図り、一日でも早く一人前の現場監督になれるよう日々努力していきたいと思っています。



## 地域社会とともに

### ■ 介護事業

(株)らいとケアでは、栃木県宇都宮市で運営するサービス付き高齢者向け住宅「とちのき鶴田」と「とちのき上戸祭」で、地域を対象とした参加費無料セミナーを実施しました。

「とちのき鶴田」では、医師、薬剤師、地域包括支援センターの職員をお迎えし、『いきいきフェスタ～認知症を学ぼう!』と題した講習会を開催しました。また、「特設相談コーナー」では骨密度測定や物忘れ相談プログラムなども行いました。「とちのき上戸祭」では、多様な住まいの場における看取りについて、医師による『在宅(うち)で看取るって大変なのかな?』と題した講習会を開催。地域のお客様やケアマネージャー、訪問看護師などいろいろな方にご参加いただきました。また「とちのき上戸祭」では、「少女少女合唱団」によるコンサートを開催し、ご入居のお客様には合唱団の子どもたちの歌声と笑顔に元気もらい満足していただきました。



いきいきフェスタ～認知症を学ぼう!～



「少女少女合唱団」によるコンサート開催

### ■ お絵かき展示・イルミネーション展示

工事現場は、周辺地域の皆さまのご理解とご協力のもとに成り立っています。ライト工業では「現場と地域の一体感を出し、工事現場のイメージアップを図りたい」との想いから、現場の仮囲いを利用したお絵かき展示やイルミネーション展示を行っています。お絵かき展示は現場周辺の保育所の児童に絵を描いていただき、イルミネーション展示は近隣の介護福祉施設の避難経路を利用させていただきました。

展示を行った工事現場の周りでは、絵を見てはしゃぐ子どもたちやイルミネーションをうれしそうに眺める施設利用者の方々の姿が見受けられました。周辺地域の方々や現場担当者など様々な方からご好評いただき、皆さまに工事現場をより身近で親しみやすいものとして感じていただけました。



イルミネーションの様子

子どもたちの描いた色鮮やかな絵

### ■ 現場見学会の実施

ライト工業グループは全国各地において、近隣住民や地域の学生の方々を対象とした現場説明会および現場見学会を行っています。

西日本支社では、大阪府立大学工業高等専門学校の教員・生徒合わせて約40名が参加する現場見学会を実施しました。あいにくの雨となりましたが、生徒の皆さまは熱心に耳を傾けてくださり、とても充実した見学会となりました。学校での学習とは異なり、実際に現場を見ながらの解説が非常に分かりやすく興味深いと好評でした。

グループ会社の(株)アウラ・シーイーでは、神奈川県横浜磯子区東町地内において急傾斜対策事業を行うにあたり、その必要性和施工へのご理解をいただくため近隣住民の皆さまを対象とした現場説明会を行いました。施工箇所の見学後、施工箇所の状況写真や作業状況の映像をご視聴いただきながら質疑応答を行いました。



パネルを用いた現場紹介の様子

実際に現場を見ながらの解説の様子

### ■ 「トライやる・ウィーク」職場体験

当社では、未来を担う人材の育成支援も企業の果たすべき責任だと考え、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所から発注された工事において、「トライやる・ウィーク」の職場体験を受け入れました。「トライやる・ウィーク」は、阪神・淡路大震災を機に兵庫県が進めている中学生を対象とした職場体験です。

今回は実際の工事現場を説明しながら、写真の撮影や安全帯の結び方、フロー値試験等を体験してもらいました。中学生たちは真剣に取り組みながらも初めての体験に笑顔も



職場体験の様子

こぼれ、終始充実した様子で職場体験を行っていました。当社は今後も様々な形で地域の教育に協力をしていきたいと考えています。

### ■ 宮城県砂防ボランティア協会での活動

当社は、1996年12月17日に設立された宮城県砂防ボランティア協会に設立当時から加入し、毎年行われる研修会や危険箇所パトロール、植樹会といった行事に当社社員が参加しています。土砂災害防止を目的とした延べ100箇所以上の点検をはじめ、二次災害防止のための災害現場の点検、さらには住宅地近くの危険箇所の点検・パトロールなど、地域に寄り添った活動を行っています。また、植樹会では地域コミュニティの方々や協力しながら植樹、種まき、苗床づくりなどを行い、地域の環境保全にも尽力しています。



危険箇所パトロールの様子

植樹会の様子

### ■ 専修大学生の企業訪問取材

当社では、専修大学一ノ宮ゼミナールの学生の訪問取材を受け、投資に関する研究活動に協力しました。同ゼミでは投資活動を研究する上で、ESG投資に着目しており、当社の社会的存在意義やCSR活動、ESGに対する考え方など、非財務情報について詳しく取材していただきました。当社としても、対話の機会が少ない学生の皆さまに、私たちがどのような考えでCSR活動を行い、ESGについてどのような方針で取り組んでいるかを伝えることができ、とても有意義な時間となりました。今後も地域の学生の研究や学習の一助となるよう様々な形で協力していきたいと考えています。



訪問取材の様子

### ■ 「麻布十番納涼まつり」への協力

当社では、2016年8月27日・28日に行われた「第50回 麻布十番納涼まつり」に協力し、奉名板と子ども歌舞伎の舞台を作成しました。当日はたくさんのお客様を迎えて盛況となりました。子ども歌舞伎の舞台では子どもたちが元気に歌舞伎を演じ、その様子をこやかに鑑賞される方々にぎわっていました。奉名板と舞台の作成をはじめとしたお祭り成功のための協力と、協賛したことで地域の方にとっても喜んでいただき、感謝状をいただきました。



子ども歌舞伎舞台

## コーポレート・ガバナンス

### コーポレート・ガバナンス基本方針

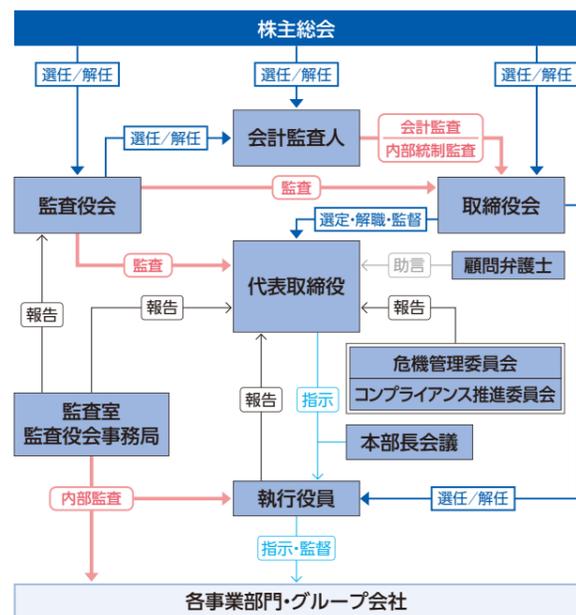
ライト工業グループは、「顧客、株主、社員をはじめ関係するすべての人々との繁栄を図る」という経営の基本方針を実現するために、会社の経営機構やシステムを常に健全に保つことをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針としています。

### 取締役会

ライト工業の取締役会は10名の取締役（うち社外取締役2名）で構成され、原則として毎月1回の取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催し、経営の重要事項についての意思決定を行うとともに、経営の監視・監督機関として、各取締役の職務執行の状況を監督しています。取締役会の開催時に併せて、社長・経営幹部等と社外役員との懇談会（意見交換）を行い、経営判断の客観性の向上、監視機能の強化を図っています。

また、当社の社外取締役は、高い見識と豊富な実務経験を有しており、各氏の知見に基づき、社外取締役として公正な立場での意思決定の参加と監督機能の強化に貢献しています。また、一般株主と利益相反の生じる恐れはない独立性を有し、社外取締役として適任です。

### コーポレート・ガバナンス体制



### 役員報酬

当社の役員報酬は業績連動の要素を取り入れつつ、報酬決定のプロセスに公正性と透明性を確保することを基本方針としており、この方針に基づき、独立社外取締役を委員長とした報酬委員会にて、会社の業績、担当職務の重要性などを総合的に判断して決定しています。

また、当社の業績および株式価値と取締役の報酬との連動性をより明確にする観点から、新たに業績連動型株式報酬制度を導入しました。この制度は、株式交付信託の仕組みを用い、業績達成度等一定の基準に応じて当社が各取締役に付与するポイントに相当する数の当社株式が交付される制度であり、中長期的な業績および企業価値の向上に貢献する意識を高めることを目的としています。

### 監査役会

監査役会は常勤監査役1名と社外監査役2名で構成され、監査役は取締役会をはじめとする社内での重要な会議に出席し、取締役の職務執行状況を監視し経営の健全性、透明性の確保に努めています。また、代表取締役と監査役は、相互の意思疎通を図るため、重要な課題や経営情報などを共有する機会を持ち意見交換を行っています。

### 会計監査

連結財務諸表および個別財務諸表について、当社の会計監査人である監査法人より監査を受けています。また、当社と同監査法人または当社監査に従事する監査法人の業務執行社員との間には特別な利害関係はありません。

## コンプライアンス

### コンプライアンス基本方針

1. 法令その他の社会的規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行う。
2. 地域社会に貢献する「良き企業市民」たることを目指す。
3. 球環境の保全と豊かで住みやすい社会づくりに貢献する。

### コンプライアンス教育

ライト工業グループは、「コンプライアンス基本方針」および「ライト工業グループ行動規範」を定め、ライト工業グループ役員全員に小冊子にして配付し、日々の業務におけるコンプライアンスの徹底を図るとともに、役員職員に対しては、法令遵守や企業倫理をはじめ、建設業法、建築基準法、労働安全衛生法、情報漏洩防止、インサイダー取引防止等の教育を職種別・部門別にプログラムを設けて行っています。

また2016年度から、ライト工業グループ役員に対し、コンプライアンスの周知徹底を図るため、e-ラーニングによる教育を毎月継続的に行っています。なお、コンプライアンスに関する懸念事案が発生した際は、役員職員に対して再教育を行い、コンプライアンスに関する意識の向上に努め、再発防止を図っていきます。



e-ラーニングの画面表示例

### コンプライアンス推進委員会

ライト工業では、2002年より「法令遵守推進委員会」を設置し、企業倫理への取り組みを積極的に行ってまいりましたが、2016年2月「コンプライアンス推進委員会」と名称を変更しました。「コンプライアンス推進委員会」は健全な事業活動の推進を目的として、社長を委員長に、本社経営管理本部長をコンプライアンス推進統括者とする体制のもと、法令や社会規範、企業倫理など広くコンプライアンスをとらえ積極的に推進し、周知徹底を図っています。また、同委員会はコンプライアンス遵守状況の監視を行うとともに、関連規程の見直しや定期的な研修なども実施しています。

### 内部通報制度

当社では、法令違反行為またはその疑いのある行為を発見し是正を図るため「内部通報制度」を制定しています。また、法務部門と経営陣から独立した監査役を、ライト工業グループ等の相談または通報の「内部通報窓口」として設置しています。

### 反社会的勢力排除の取り組み

ライト工業グループでは、反社会的勢力からの働きかけに対して毅然と対応し、不当要求に応じない取り組みの強化を図っています。具体的には、「ライト工業グループ行動規範」および「危機管理マニュアル」を独自に制定するとともに、工事下請契約約款等で反社会的勢力からの不当要求等の拒絶、関係遮断について明文化しています。また、不当要求防止対応部署を設置して、迅速に対応できる環境を整えています。

### 公正な取引

ライト工業グループは、発注者および協力業者等の取引業者と公正な取引を実施するため、独占禁止法、建設業法等法令への理解を深めることに努めています。ライト工業グループ役員が、業務遂行の上で遵守行動すべき基本的な事項を行動規範に定めており、公正な取引の徹底を図っています。

## リスクマネジメント

企業活動を継続し、社会に貢献していくためには、グループ全体のリスクを把握し、分析・解決に向けて取り組む必要があります。  
 ライト工業は、BCP（事業継続計画）から情報セキュリティまで、経営のあらゆる領域において万全のリスク管理体制を構築し、健全かつ持続的な企業活動の実現を目指しています。

### ■ BCP（事業継続計画）

当社の事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）は、大災害が発生した場合でも混乱なく、その影響を最小限にとどめ、業務が継続または速やかに再開できること、さらに大災害発生後の復旧、復興時には当社の技術力等の活用を通じて社会に大きく貢献できることを目的として、当社の体制や役職員の行うべき事項等を定めています。なお、この計画は原則として毎年点検、見直しを行い、事業継続力の維持・向上に努めています。

#### BCP（事業継続計画）基本方針

1. 役職員（家族含む）、来訪者、工事の従事者等の生命・身体の安全確保を最優先とする。
2. 地域・関係者への配慮を十分に行いつつ、当社の施工した被災箇所の早期復旧及び二次災害の発生拡大の防止に努める。
3. 取引先の復旧活動等を支援する。
4. 当社が保有している技術力を十分活用することにより、被災地と連携して救助・復旧活動に努める。
5. 大災害の発生時には、全社一体となって1.～4.の活動を行い、その活動を通じて、取引先や社会からよりいっそう信頼される企業を目指す。

### ■ 情報セキュリティの強化

ライト工業グループでは、情報管理規程に基づき全社をあげて情報セキュリティにおけるリスク管理に努めています。社内情報や機密情報の漏洩防止に関する具体的な対策については、「情報漏洩防止マニュアル」を作成し、ライト工業グループ役職員に周知徹底しています。また、標的型攻撃やランサムウェア等のサイバー攻撃に備えて、高度なソリューションを導入し、セキュリティレベルの向上を図っています。

#### サイバー攻撃への対策

ライト工業グループでは、外部からのウイルス侵入やサイバー攻撃から社内ネットワークを防御するため、次世代型のファイア・ウォールを設置し、アプリケーションごとの不正通信、業務目的外アクセスを監視しています。エンドポイントのセキュリティ対策についても二重に対策ソフトを導入するなど、常に最新のセキュリティ対策を施しています。

### ■ 個人情報の管理

当社では、業務上取り扱うお客様、取引関係者、従業員などの個人情報について、個人情報保護に関する法令およびその他の規範を遵守し、かつ取り扱いに関するルールや体制を確立し、個人情報を適切に管理しています。

## ステークホルダーとのコミュニケーション

ライト工業グループの事業活動は、様々なステークホルダーの皆さまとの関わりの中で成り立っています。適切な情報開示を行うとともに、持続的な成長のためにはすべてのステークホルダーの皆さまとの協働が必要不可欠であると認識しています。

### ■ 決算説明会・現場見学会

ライト工業では、IR（投資家向け広報活動）のさらなる充実を目的に、機関投資家、アナリストの方々を対象とした決算説明会を年2回（5月、11月）開催しています。決算説明会では、代表取締役をはじめIR担当取締役が、決算概要や業績の推移、今後の取り組み方針、最新の技術紹介などについて説明しています。なお、決算説明会で使用した資料は当社ウェブサイトで一般公開しています。また、IR担当取締役が機関投資家やアナリストの方々とは直接対話する個別ミーティングも積極的に行っています。

さらに、当社の事業活動への理解を深めていただくために、2016年10月、機関投資家やアナリストの方々を対象に、宮城県気仙沼市の連結子会社株式会社小野良組の視察を行い、被災地の復興状況の理解を深めていただきました。今後もさらなる情報開示とコミュニケーションの充実を図っていきます。



決算説明会の様子



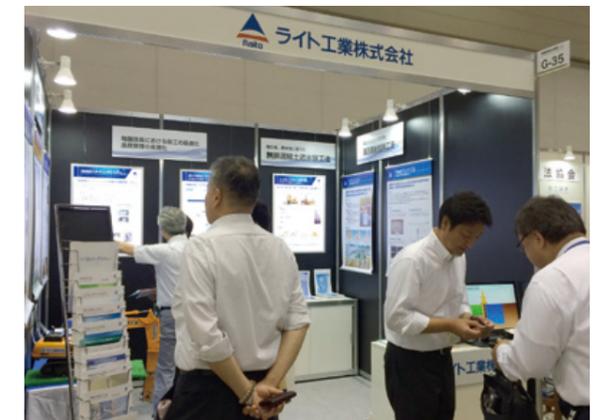
現場見学会の様子

### ■ 株主総会

当社は、株主総会を株主様との対話に関する重要な場と考えており、適切な情報開示や、招集通知の早期発送等、株主の権利が実質的に確保されるよう、適切な対応に努めています。2017年6月29日、東京都千代田区九段北のアルカディア市ヶ谷（私学会館）にて「第70回定時株主総会」を開催し、約110名の株主様にご来場いただきました。

### ■ 各種展示会への出展

当社が開発した独自技術等を各種展示会を通じてお客様をはじめとするステークホルダーの皆さまにご紹介しています。「地盤改良技術展2016」では、国土交通省が推進するi-Constructionを地盤改良に導入した「3D-ViMaシステム」や「GNSSステアリングシステム」を、「建設技術展2016近畿」では、「OPTジェット工法」や「マックスパーム注入工法」等の当社の独自技術を紹介しました。今後も当社の技術や取り組みがステークホルダーの皆さまにご理解いただけるように努めていきます。



展示会の様子



〒102-8236 東京都千代田区九段北四丁目2番35号  
TEL.03-3265-2551 (大代表) FAX.03-3265-0879  
<http://www.raito.co.jp>

本レポートについてのお問い合わせ先 ライト工業株式会社 経営企画部 TEL. 03-3265-2555



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。